

研究課題名	癌悪液質治療が切除不能膵癌化学療法に及ぼす影響の検討
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
研究期間	(倫理委員会承認後)～ 2030年 12月31日
対象者	2023年7月1日から2028年6月30日の間に、広島大学病院消化器内科で膵癌と診断され、アナモレリンの投薬がなされた患者さん
意義・目的	<p>がん悪液質は食欲不振と体重減少、骨格筋減少を主張とする症候群であり、進行膵臓癌に高率に合併することが報告されています。現在、化学療法が進行膵癌治療の中心を担っていますが、がん悪液質は化学療法の治療効果減弱や副作用の増強との関連が指摘されており、予後悪化の因子として知られています。2021年4月より、非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸がんにおける悪液質治療薬として、アナモレリンという薬剤が使用できるようになりました。我々は切除不能膵癌と診断され、長期に化学療法を行うことが予想される患者さんに対して積極的にアナモレリンの投与を行っています。しかしアナモレリンが、化学療法および膵癌の治療経過にどのような影響をどの程度及ぼすかについては、まだ明らかになっていない部分が多く、これから議論を行って知見を深めていく必要があります。そこで、悪液質合併切除不能膵癌の治療経過に、アナモレリンがどのような影響を及ぼすかを明らかにすることを目的として、本研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査、各種画像検査、化学療法の種類、投与量、投与期間などです。</p> <p>取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。</p>
共同研究機関	ありません
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医科学研究科 教授 岡 志郎
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供</p>

していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5555

広島大学病院消化器内科 職名 助教 氏名 中村 真也